



## 「子どもの危機にどう応えるか」

小倉 清 著 (岩崎学術出版社、2020)

本書は、本学会名誉会員である小倉清先生が以前書かれた文章をコロナ渦の中でまとめられたものである。4部に分かれており、「虐待はなぜ繰り返されるのか」、「子どもたちは何を訴えているのか」、「『精神療法はもう古い』のか」、「患者の危機にどう応えるか」といった題目が並ぶ。これらの題目を見ただけでも、著者の「もっと子どもを大事にしなければ人類は滅びる」という強い危機感が伝わってくる。

冒頭から、「赤ちゃんを含めて子どもというものは親の意向によってどんなにでもなる」という我が国の社会の在り様、大人の思いを鋭く批判する。そして、著者の永年の夢であった「母子ダイケア」(2014年～)についての文章が続く。これは究極の精神疾患予防論でもある。ここでは、スタッフが「自分自身との対決を余儀なくされる」、「人間という存在そのものについて深い考察に至らざるを得ない」ほどの過酷な作業がなされるわけだが、それだけ人間の陰の部分を真正面から扱っているという証左であろう。

最終章の「子どものうそ」についての文章の最後に、著者自身の子どもころの「うそ」が載せられているが、大上段に「危機にどう応える」と銘打った著者の照れもあるのか。

いずれにしても、本書は乳幼児やその親と関わっている我々にとって、懸命に生き延びようとしている子どもたちへの著者の愛を感じられる必読の書である。

クリニック川畑 川畑友二



### ニュースレター編集部より



城東こどもクリニック  
松原 徹

人類と新型コロナとの戦いは既に1年半に及び、さまざまな影響を我々に及ぼしています。一見、変わりなく遊んでいるように見える子どもたちでさえ、大きな影響を受けています。

普段から家の外ではマスクを付けることが当たり前となり、保育園でも子どもたちも先生も1日の大半をマスクを

付けて過ごしています。先日、Yahooニュースにこんな記事がありました。ある女の子の登園しぶりの理由が「先生のお口が怖い」だそうです。園での昼食時にマスクを外した先生の口が怖い…。もちろんその背景には周りの大人、特に母親の不安が大きく影響しているのでしょう。コロナ禍は直接的にも間接的にもさまざまな影響を子どもに与え、心の育ちに大きく関わることを忘れてはいけません。

コロナ禍が子どもたちにどんな影響を及ぼしているかニュースレターでも取り上げて行きたいと思います。皆様からのご投稿をお待ちしております。

投稿原稿あて先: 企業組合エコ・アド forest@ecoado.jp



## 日本乳幼児精神保健学会

### 2020年度通常総会報告

2021年3月14日(日) 13:00~14:25

開催形式:WEB開催(ZOOM形式)

司会:川畑友二 議長:松原 徹  
議事録署名人:中村俊一郎 記録:Dalrymple規子

学会会員数377名のうち、総会出席者40名、委任状97名により、総学会員の1/3を満たし、会則第19条に則り総会が成立した。

#### 1.協議事項

- 第1号議案 2020年度活動報告:満場一致にて可決
- 第2号議案 2020年度会計報告(途中報告と修正予算案):満場一致にて可決
- 第3号議案 会費改訂・団体会員の導入:質疑応答ののち、満場一致にて可決
- 第4号議案 2021年度活動計画:満場一致にて可決
- 第5号議案 2021年度予算案:満場一致にて可決
- 第6号議案 幹事選挙:満場一致にて可決
- 第7号議案 会則変更について(議案書訂正):満場一致にて可決
- 第8号議案 名誉会員:満場一致にて可決

以上、提案は全て満場一致にて承認された。

#### 2.報告事項

- ・WAIMHプリズベン大会についての報告
- ・2021年度第1回学術集会からの案内(郡山大会)

### 日本乳幼児精神保健学会 事務局

〒963-8871 福島県郡山市本町 1-13-17 医療法人仁寿会 菊池医院内 日本乳幼児精神保健学会事務局  
TEL 024-932-0154 FAX 024-932-0245  
E-mail info@japan-aimh.com https://www.japan-aimh.com/

#### 会費のお振込みは下記の口座をお願いします

- 1 ゆうちょ銀行振替口座 番号 00200-6-82510
  - 2 ゆうちょ銀行通常貯金口座 記号 10940 番号 30141501
- 名義:日本乳幼児精神保健学会 名義:日本乳幼児精神保健学会

# 第1回 全国学術集会 郡山大会

進捗状況のお知らせ

**開催日** 2021年12月11～12日

**会場** 日本大学工学部50周年記念館

郡山大会大会長  
成井 香苗



WAIMHブリスベン大会が6月26日に終了し、いよいよ郡山大会へむけ大会実行委員会はパワー全開で開催準備を進めています。

ハイブリッド大会のプログラムが固まってきました。渡辺会長はじめ学会幹事会のお力添えをいただき、記念すべき第1回にふさわしい国内外のゲストに登壇していただけそうです。まずWAIMHからExecutive DirectorのKaija Puura博士と、BRAC IED(ブラック教育開発研究所) Executive DirectorのErum Mariam博士が、Webなし来日して(コロナの状況次第)講演していただけることになりました。

Kaija先生は、2014年のFOUR WINDS郡山大会にも登壇いただき、東日本大震災直後の私たちの活動をご存じの先生ですので、より有意義な講話と世界への橋渡しにお力をいただけるものと確信しています。

Erum先生は、ロヒンギャ難民の子どもたちと母親たちの支援に民族文化や遊びの力を活用した実践を通して、理論よりもそうした支援の有効性を訴えておられます。福島で私たちが行ってきた「親子遊びと親ミーティング」や「ペップキッズ」の支援とも共通してとても興味深い講演を皆さんにお届けできると思います。

また、柳田邦夫先生にもシンポジウムのコメントと、市民講座の講演をお願いしています。

ポスター発表も募集します。Web参加の方も含め、双方向の意見交換がポスターセッションでもできないか、検討しています。応募の方法は後日お知らせします。ぜひご応募ください。

2日目は、バイオリニスト天満敦子さんに魂のこもった演奏を聴かせていただき、参加者皆さんの震災からCOVID-19への疲れを癒していただけたらと思っています。天満さんは、東日本大震災後、お母様の故郷でもある福島県を中心に被災地各地での演奏を続け、地元の人々との絆を深めている演奏家です。

なお、12月の開催時期にはワクチンの効果が出ていることと期待して、1日目の夜は懇親会を企画しています。久しぶりに会員の皆様と直接お会いできたら、それだけでも元気が出るような気がいたします。アトラクションをお楽しみに。

災害を潜り抜け、新型コロナのパンデミックによって本当に私たちはストレスをうけ、また多くのことを学びました。郡山大会にてお互いに研鑽しあうとともに、パワーを復活しましょう。日本の子どもたちのために、世界の子どものために本学会が意義あるものになれるよう記念すべき第1回大会を開催できたらと思っています。

どうぞご参加ください。



## 世界乳幼児精神保健学会 2021年第17回世界大会

Brisbane Australia 印象記

2018年のローマ大会で次の開催地がブリスベンと聞いた時から楽しみにしていた2020年大会は、パンデミックのため残念ながら延期になってしまった。パンデミックで世の中は大きく変わり、大学の授業はすべてオンラインになった。慣れてしまうとオンラインは案外便利である。学生たちは、遠くからも出席できる、資料が見やすい、声が聞きやすい、動画を繰り返し見ることによって理解が深まる、と言う。1年延期されハイブリッドで開催された17回大会は、まさにこのオンラインの利点を活かした大会だと感じた。混乱を乗り越え見事に運営された地域の組織委員会の皆様へここからの敬意を表したいと思う。

本大会のテーマはCreating stories in Infant Mental Healthだった。ログインページのウェルカムメッセージ、34か国から参加した開会式でのウナギのお母さんの絵本の読み聞かせ

と子どもたちのダンス、それに続く基調講演での西オーストラリアの先住民の母なる大地と動物たちの物語を用いた講演から、その土地に伝わる物語が子どもたちを育ててきた歴史を感じ、自分自身が現地にいる感覚を味わった。私もIFEEL Pictures研究のポスターで本学会に参加できたことをうれしく思う。

まだ会長講演等いくつか視聴できていないが、興味深い動画がたくさんある。6か月間繰り返し見ることができる利点を活かして、これからも学び続けたい。



慶應義塾大学環境情報学部  
濱田庸子

2021年6月22日から27日の日程でWAIMH2021ブリスベン大会が開催されました。

2020年現地開催されるはずが新型コロナウイルスの世界的流行のため1年越しに開催され、対面と仮想オンラインのハイブリッド開催の世界大会となりました。予測不能な因子が多い中、組織委員会のご尽力で素晴らしい大会であったことをご報告します。

WAIMH2020の事前登録の締め切りが2020年の3月でした。新型コロナウイルスの話題が世界に広がり始め、ブリスベンに行けるのだろうかと不安を感じながらそれでも期待を込めて事前登録したことを記憶しています。しかし期待は外れ、ますます世界中に新型コロナウイルスが蔓延し、世界は分断されました。そしてブリスベン大会は1年後に延期されました。秋にはハイブリッドで開催されるお知らせが届きましたが、実際に参加するま



国際委員会  
香取奈穂

ではイメージが湧きにくく、見逃すのではないかと、日本からの参加では仕事から完全に離れることはできず学会に集中できないのではないかとオンライン参加に不安を抱いていました。

しかし参加してみると世界は遠いどころかむしろ近く感じました。53個のライブプログラムと、400個以上のオンデマンドプログラムを組み合わせたボリュームのある構成でした。日本からは13組の方から14演題の発表について日本乳幼児精神保健学会事務局にご連絡いただきました。またプログラム上でさらにシンポジウム2つ、ワークショップ1つ、口頭発表2つ、ポスター9つの日本人の発表が確認されました。

今回の大会に830人以上がオンライン参加し、200人以上が現地参加したとのこと。多くの発表者は自国から参加しており、リラックスした表情や発表者の後ろに映る背景からそれぞれのホームグラウンドを感じました。

そして何より全てのプログラムが6か月間自由に聴講できるのはハイブリッド開催ならではの特典でしょう。見逃すこともなく、何度も見ることができます。

これからの学会の在り方、世界とのつながり方の新しいスタンダードを感じる学会でした。